

# 平成29年度 東京都立芝商業高等学校経営報告

平成30年3月30日

校長 丸山 正二郎

## I 今年度の取組と自己評価

### 1 教育活動の取組と自己評価

#### (1) 学習指導

##### ① 習熟度別授業と少人数編成授業の実施

次のように習熟度別授業と少人数編成授業を実施し、基礎学力定着に取り組んだ。

習熟度別授業	2 学年	商業・財務会計（会計系列）	（4 単位）
	2 学年	商業・原価計算（会計系列）	（3 単位）
	1 学年	数学・数学 I	（3 単位）
少人数編成授業	1 学年	商業・簿記	（6 単位）
	1 学年	英語・英語会話	（2 単位）

1 学年の3教科については少人数・習熟度ともに有効性は高いが、本年度1 学年の簿記6 単位必修修については生徒の実態に応じて学期ごとに習熟度クラス編成をし直した。学校評価アンケートで効果が上がっていると考えている教員が79%（▼6ポイント）であるのに対して、生徒・保護者は62%（△3ポイント）に留まっており、更なる授業工夫や方策を検討する必要がある。

##### ② 学力スタンダードの推進

定期考査を利用しての学力調査としているが、教科会で授業進度の統一化は行っているものの理科、社会で共通考査問題化ができていない。専門高校のため教科によって専任教員が2名しかおらず、2名で3科目以上の授業担当をするなどの事情はあるが、スタンダード確保のため改善を講じてゆく。なお、国語で語彙力向上、数学と英語で苦手意識生徒への対応が課題である。

##### ③ 商業改革先行実施校としての教育課程改編による学習充実について

ビジネス基礎でのグループ学習、研究、プレゼンテーションが実施でき、全都商業科教員を対象とした公開研究授業も毎学期ごとに行い、毎回20名余の参加があり他校次年度実施に貢献している。なお、手段としての検定合格状況を新教育課程の1年生で見ると、簿記（3級・2級）で96.2%、情報処理（3級）96.7%、商業経済（ビジネス基礎）88.7%、ビジネス文書（ワープロ3級）92.5%の合格率であり、不合格者も補講等により最低到達度をクリアーしている。

##### ④ 授業改善の取り組み

若手教員研修の授業研究を中心に授業改善に取り組み、生徒にわかり易く「伝える」授業ではなく「伝わる」授業を呼びかけている。学校評価での生徒・保護者による教員の授業改善満足度は67.1%（前年比△0.2%）と大きな変化がなく、一層の努力が必要である。

#### (2) 進路指導

##### ① 全校体制指導による進路実現（数値は3/15 現在）

「就職」45.1%（92名）、「進学」50.5%（104名）、その他4.4%（9名）であった。昨年に比べ就職者は7.2ポイント減少し、進学が2.3ポイント増加した。また、その他は結果待ちを含むものの2.9ポイント増加している。本校では初めて就職者数を進学者数が上回り進学志向の高まりが窺える。

就職者を職種別にみると、事務職が66%、販売・サービス職が17%と8割強を占め、その他は商品管理等が7%・オペレータ・プログラマ及び営業職がそれぞれ5%となっており、商業の学習や指導を生かした職種についていることが窺える。なお、総合職が4% 5名で、前年0、前々年2

名に比較して増加傾向にあり、企業からの期待が増している。

進学では、四年制大学：46名、短期大学：6名、専門学校等：51名であった。なお、その他の9名の大半が進学希望者で大学受験中や結果待ちである。

## ② キャリア形成の取り組み

進路指導部、1・2・3学年担任が中心となり職業教育を推進している。特に、6月7日（水）卒業生を招いての就職懇談会では84名の参加が得られ、3年生のみでなく2年生も短時間参加させたことで大いに進路意識を啓発することとなった。同時に進学者向け説明会と見学会を実施した。

また、12月に実施した1学年全員、2学年就職希望者の計300名余でのインターンシップが早期職業観・勤労観醸成と進路意識の啓発に大いに有効となっている。

## ③ 進路実現の支援

進路に向けた学年ごとの模擬試験の実施や、各目標に向けた各種検定試験の取得指導を、年間を通じて授業以外の放課後や休業日、長期休業日に講習を行って支援した。学校評価による進路指導への満足度（一人一人へのきめ細かな指導および進路情報提供）は最下段の数値目標と実績の通り。

# （3）生活指導

## ① 基本的生活習慣の確立の推進

「生活指導」ではなく社会人としての「マナー指導」として全校で取り組んでいる。毎朝、生徒による学園委員、生活指導部・学年教員を中心に登校時に、遅刻・服装・身だしなみの指導を実施し、数名の常習的遅刻者のほか、3学年生徒の進路内定後の遅刻が増加傾向にあった。また、月に1回頭髪・服装指導を全校体制で実施し、服装・ビジネスマナーとしての意識啓発を図った。なお、体罰の根絶に向けた教員への意識啓発を職員会議ごとに行い、事故ゼロ（0）を継続し、いじめ調査も該当はなかった。マナー指導への学校評価による満足度は最下段の実績の通り。

## ② TPOを踏まえた学校文化の醸成

ビジネスマナー教育を全校のスローガンに、身だしなみを整え、毎授業開始・終了時のあいさつ指導を実施した。3学年の進路活動はもちろん、地域イベント参加や1・2学年のインターンシップで、社会の一員としての自覚を醸成するとともに、公共心や道徳心の育成を図った。チャイム始業の改善は進んだものの教員による指導の徹底が不十分であった。

## ③ 安心・安全への取り組み

a セーフティー教室として4月に1学年を対象に携帯電話によるインターネット事故・不正防止講話を愛宕警察署より講師を派遣して頂き実施した。また、12月に犯罪被害者遺族の全校生徒への講話では、大いに被害者の苦痛や心労等に耳を傾け、一人一人の意識啓発として有効であった。

b 毎週1回（木曜）スクールカウンセラーが常駐し、個々の生徒の相談と担任等教員とで定期的情報共有によって良好な効果をあげているが、年々相談生徒の人数は増加傾向にある。家庭問題や精神的悩みが増えているが、学校評価の「様々な悩みや相談を先生に気軽に持ち掛けているか」では、生徒は44.3%が当てはまると回答しているのに対し、保護者や教員は51.3%であり、やや生徒との意識乖離が見られ、一層の組織的体制作りと支援の推進が必要である。

# （4）特別活動・部活動

## ① 主体性・自律性の育成

生徒会や委員会活動を全校で支援し、体育祭や文化祭等の行事を通じて生徒の主体性・自律性の育成を図った。また、部活動の充実に取り組み、各運動部のみでなく、華道部・茶道部に「青少年を育てる課外活動支援事業」による外部指導者を招聘でき、活動の定着が図られた。部活動の加入率は兼部生徒も多く100%を超えている。学校評価での行事・生徒会活動・部活動の生徒及び保護者の満足度は平均76.9%であり、前年より微増はしているものの校外での活動で外部に公開する機会を増やすなど、一層の活性化への支援を行っていく。

## ② いじめ、体罰根絶の取り組み

全校年3回のアンケートでは該当はなかったが、携帯を使用しての写真を他者に見せるなどでのトラブルや部活動内でのいじめではない生徒相互のトラブル等があり、早期解決を図れたが学校として一層アンテナを高くした把握をしていく必要がある。

③ 国際社会への興味・関心の喚起

4年目となる夏季・春季英国研修への15名参加（前年11名）が実現し、文化祭等で展示報告を行った。また、冬季オリンピック開催を世界に視野を持つ機会として興味・関心の喚起をした。

④ 防災教育の推進

a 避難訓練の実施

7月、9月、12月、3月に避難訓練を実施した。港消防署、港区地域防災課の指導・助言を受け、地震や火災など、災害に応じて避難する場所や経路、方法等を改善しながら実施できた。

b 宿泊防災訓練の実施

6月9日（金）～10日（土）に学校を宿泊場所として1学年全員に一泊二日の宿泊防災訓練を実施した。芝消防署、港区防災課等の協力による避難所設営、起震車体験、放水訓練、救命訓練、煙体験を行い、竹芝地区まちづくり協議会の近隣関係企業等の防災担当者による視察を兼ねての交流もでき、生徒にも良い意識啓発となった。

## （5）学校経営

① 生徒募集活動

ホームページを活用し、通年で平均週2回タイムリーにトピックス発信することができた。また、学校案内の刷新を行い好評ではあったが、応募倍率の向上にはつながらず、より学校の特色発信を強化していく必要がある。

② 組織運営

分掌、委員会、教科会、企画調整会議等の校内運営組織は機能しているが、会議の持ち方や情報の共有が不十分である。多忙感もあるが、教員の打合せや会議が形骸化、または自己関連以外への意識低下が見られ、全校での共有が弱いことが課題である。

③ 危機管理体制

個人情報管理の徹底、情報通信機器のモラルの高い活用、体罰の根絶、いじめ防止を重点に、校内各指針や規則、手続き等を明確にして整備するとともに、サービス事故発令通知のたびに全教職員に周知、職員室等で話題にすることで事故0（ゼロ）の意識啓発をしてきた。1件、定期考査の答案返却に際し1名分の答案一時紛失が生じたが、全校での捜索で事なきを得るという事態が発生した。これを契機に再度徹底を図っていく。

④ 開かれた学校の取り組み

竹芝まちづくり協議会、（一社）竹芝エリアマネジメントと連携し、生徒が竹芝地域の有力な一員として街づくり参加を推進している。福井県池田町との連携による「芝商池田キャンパス交流事業」がスタートした1年目、試行してきた放送部による活動のほか2学年模擬株式会社芝翔の生徒15名が夏季休業中に二泊三日で池田町の現地調査・研究・試作も実施できた。また、文化放送連携による浜まつりへの参加、公開講座、校庭開放も予定通り実施し、好評を得ている。

⑤ 経営企画室との連携

学校の施設・設備の安全維持管理、教育活動の裏付けとなる予算の適正・効果的な執行を図り、予算執行状況は前年から改善された。また、業者選定や予算会議等は円滑に進めることができた。12月から校舎全館空調改善工事が始まり、約1年間の具体的工事計画が立てられた。

## 2 重点目標への取組と自己評価

### （1）意欲ある生徒の安定確保

中学生および保護者向けの学校見学会、説明会、体験授業、個別相談等は計画通り実施し、前年並みの参加数は得たが、推薦1.71倍、一次最終0.87倍といずれも目標には届かず、二次、三次と入選

業務を余儀なくされた。状況の分析を行い、一層の魅力作りと共に広報活動を強化する必要がある。

## (2) 基礎学力の向上

- ① 学力スタンダード、技能スタンダードを活用しての基礎学力定着を図ったが、十分な検証と改善までは取り組めず教科会を中心にきめ細かな改善が必要である。また、全校朝学習の学校評価による効果について、保護者が50% (51%)、生徒は42% (45%)の成果認識であるのに対して教員の成果認識は71% (73%)と意識乖離が見られ、生徒が実感できる一層の内容充実が必要。
- ② 言語能力基礎力醸成の方策としての読書活動推進については、年間計画で7・8月の夏季2か月を読書月間に位置つけたが、通年で1か月平均1冊も本を読んでいない生徒が39% (35%)、3冊以上読んでいる生徒は23% (22%)であり、若干悪化している。就職や進学の小論文等の基礎力育成のためにも読書活動推進を強化していく必要がある。また、一日当たりの家庭学習時間は2時間以上6.8%、1~2時間27.2%、30分~1時間28.4%、30分未満37.7%で、いかに少ないかが窺えるが、学校や図書館等の家庭以外での自主学習は含まないため、把握方策を検討していく。

## (3) 魅力ある実践的学習の取り組み

- ① 1学年の「ビジネス基礎」に「東京のビジネス」を組み込んで身近な題材で正解の無いプランを考え、発表するまでのサイクルをグループ学習も取り入れながら実施し、2学年の「ビジネスアイデア」につなげられる授業構築ができた。
- ② 学習した商業の知識・技能を実践的に体験する場面づくりに位置付けた「模擬株式会社“芝翔”」で、福井県池田町との連携交流に取り組みせ、夏季休業には二泊三日現地視察、研究、調査、交流を得て、提案できるプラン作成を行った。3年次に繋げて池田町にプレゼン提案する。
- ③ 竹芝地区まちづくりへの継続参画として、特に地域交流イベントの“竹芝夏フェス”の広報活動を行い、PR用配布団扇のデザインの市場調査を経て考案、提案し、採用・購入してもらうことができ、成果を体験できる実践的学習活動が展開できた。

## (4) 役立つ技術・技能の習得と検定・資格の取得

- ① 1年全員インターンシップを活用し、情報処理の授業の中で各自が行った企業を題材に企業調べ、実習、まとめを行い、パワーポイントで相互報告を行わせ、3月にインターンシップでお世話になった企業担当者約30名を招いての各クラス代表生徒発表までを行った。ICT活用と学習実践拡大を図って行く。
- ② 本年度2学年から、ビジネス科目は3系列(会計、情報、流通)の選択制に変えたため、2学年からの検定も系列別専門分野の受験となった。各分野のより高い専門性に繋げていくことが必要である。なお、3学年全商検定1級について、3種目合格者8名、4種目合格者5名、5種目合格者3名の計16名(前年計8名)であった。

## (5) 帰属意識と自尊心の育成

- ① 学校行事の充実により意識啓発を図り、学校評価による行事への満足度は生徒が67% (△4%)、保護者が84% (▼1%)となり、主体的な各自パフォーマンス発揮と集団意識の充実をある程度図ることができた。一層の充実策を検討していく。
- ② 部活動や生徒会活動、ボランティア活動が活発に行われ、各大会や協議会に学校代表として積極参加し、参加生徒の自信に繋がった。学校評価の満足度は、生徒73% (△6%)、保護者84% (△4%)と微増した。一層の組織対応で充実度の向上を図って行く。

## (6) キャリア教育の充実

1学年全員と2学年希望者に対して、国際ロータリークラブ2750地区の協力をえて、12月12日(水)13日(木)に企業等約120社で320名のインターンシップを実施した。中学校までのものと

違い、社員として実務体験を依頼しており、生徒・保護者・企業から好評を得ており、進路を考える有効な機会となっている。こうしたキャリア教育充実への取り組みに対する評価は、生徒自身の高い積極性参加意識が64%(62%)、保護者の考える充実度が87%(85%)であり、一層の生徒自身の意識の向上を図っていく。

### (7) 国際的な視野を広める

国際的視野を広めるための取り組みでは、本校に配属されたJETプログラムのサラ講師による献身的指導が効果を上げている。また、夏季及び春季それぞれ2週間の英国研修には15名(前年11名)の参加があり、徐々に希望者は増えている。

### (8) 連携の推進

連携型中高一貫教育研究協議会を年4回開催した。(北区飛鳥中学校・十条富士見中学校)8月から12月にかけて2回の体験授業を兼ねた見学会ほか、生徒によるビジネスマナー講習、11月に半日体験入学の連携活動を行った。なお連携では12名の受け入れ枠に対し6名の入学があった。一方、地域連携では福井県池田町と竹芝まちづくり協議会、文化放送との連携が軌道に乗りつつあり、継続・発展させたい。なお、大学との連携具体化が遅れており、生徒に有効な構築をしていく。

## II 次年度以降の課題と対策

### 1 生徒の学力向上と進路実現

#### (1) 基礎学力の向上

- ① 教科毎の指導目標を明示し、生徒に目標をしっかり持たせた学習への取り組みを行わせる。
- ② 数学、英語、簿記関係科目について習熟度少人数授業できめ細かな指導を継続する。
- ③ 学力及び技能スタンダードにより実態を把握し、全教員による授業改善を行う。

#### (2) 進路実現

- ① 進路に対応した教育課程の実施2年目にあたり、3学年を通した生徒一人一人の目的意識を向上させるため、検定試験を手段とした教育力アップを図る。
- ② キャリア教育を充実させ、生徒の職業観、勤労観を高めた進路実現につなげる。この一環として、1学年全員のインターンシップを継続し、組織対応で早期からの進路意識向上に活用する。
- ③ 教育課程改編による、生徒の進路を見据えた選択分野別学習の充実と共に、適切な分野選択ができるよう、ガイダンスを計画的、かつ丁寧に実施する。

### 2 意欲ある生徒の募集

#### (1) 入試倍率の確保

- ① 生徒募集のための学校見学会や説明会、出前授業、体験入学等を全校体制で計画的にこなし、特に中学生自身にもわかりやすく本校理解を深めていくことが急務である。
- ② ホームページのトピックスを活用して、こまめな活動状況や学校の“今”を情報発信する。
- ③ 塾等へのアピールを強化し、特色理解を図っていく。

#### (2) 連携型中高一貫教育校の取り組み

現在連携の北区飛鳥中学校と十条富士見中学校との連携内容を再度検討し直し、その効果を検証しながら入学希望者拡大を図る。

#### (3) 魅力ある商業特有の教育活動への取り組み

ビジネスの学びを社会と接する地域連携を中心に体験的に学習し、社会の一員として有用な精神を学ぶため、竹芝まちづくりへの参画、福井県池田町連携「芝商池田キャンパス」、文化放送連携等の活動を推進させて、生徒の具体的活動体験機会を活用する。

【29年度数値目標と実績】

		目 標	本年度実績	昨年度比
入選応募倍率	推薦	3.0倍	1.71倍	※本年度より30%に変更
	一般	1.2倍	0.87倍	▼ 0.07
進路決定		100%	就職 45.1%	▼ 7.2
			大短専 48.5%	△ 2.3
			その他 6.4%	△ 4.9
主な検定試験合格人数				
	全商簿記1級	40名		
	(会計)		49名	△ 14)
	(原価計算)		42名	▼ 17)
	日商簿記2級	20名	24名	△ 8
学校評価	入学満足状況	80%以上	77.8%	△ 2.5
	マナー指導	80%以上	83.1%	△ 0.3
	教員授業改善	80%以上	67.1%	△ 0.2
	進路指導満足	80%以上	75.5%	▼ 2.2

<参 考> 平成29年度地域等連携先

- 竹芝地区まちづくり協議会・(一般社団法人)竹芝エリアマネジメント  
→ 地域防災、安全、にぎわいづくり計画
- 文化放送 → 浜まつり(11/3)キッズエキスポ会場(校庭) 企画・運営
- 福井県池田町 → 芝商いけだキャンパス交流 企画・提案・交流
- 国際ロータリー2750地区 → 1学年全員インターンシップ
- JR東日本 事業創造本部 開発推進部門  
→ 竹芝ウォーターフロント開発 水辺広場の活用計画